

法人本部 令和3年度事業計画

I 法人の目的

この社会福祉法人ひいらぎ会は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行います。

第1種社会福祉事業

イ) 障害者支援施設の経営

第2種社会福祉事業

イ) 障害福祉サービス事業の経営

ロ) 特定相談支援事業の経営

ハ) 障害児相談支援事業の経営

ニ) 障害児通所支援事業の経営

公益事業

イ) 日中一時支援事業

ロ) 障害者相談支援事業

II 法人の理念

～ 一人ひとりの尊厳と心豊かな暮らしに寄り添う ～

- ・本人主体のその人にふさわしい方法で心豊かな生活を営むことができるよう支援します。
- ・人権と意志を尊重し、一人ひとりの能力や障害特性に応じた専門性の高い支援を行います。
- ・この地域に根ざした総合的な福祉サービスを提供します。

III 法人の基本方針

法人として新たに作成した中長期計画に沿って、経営組織体制及び財務規律の強化に努めるとともに、地域のニーズに応えるために、事業の着実な継続や社会貢献活動に取り組んでまいります。また引き続き、利用者の安心・安全を確保し、利用者の立場に立った質の高いサービスを提供するとともに、安定した財務基盤の確立、人材の確保と育成に注力し、安定的な法人運営につなげてまいります。

IV 運営の基本方針

1. 《基本的人権の尊重》

一人ひとりをかけがえのない存在として人格・人権及び希望を尊重し、人間としての尊厳や利益が損なわれないようします。

2. 《よろこびある生活》

利用者の人格や行動を情緒豊かな個性と受け止め、共に向上することで生き甲斐や楽しみを持って生活が送れるよう支援します。

3. 《家族と共に》 家族との綿密な連携で利用者の人格形成に努めます。

4. 《地域と共に》

地域関係機関及び地域住民との連携により、地域福祉啓発活動を積極的に推進するほか、利用者が地域において安心して生活できるように、地域福祉の充実発展に貢献します。

5. 《支援・援助技能の充実》

専門職員の役割を自覚し、絶えず研鑽と創意工夫を重ね、各種のニーズや要望に対応できる支援・援助技能の向上に努めます。

6. 《サービスの充実》

利用者の自己決定を尊重し、利用者本位のサービスを基本として、利用者の選択に十分応えることができるようサービスの充実を図ります。

7. 《安全の追求》

設備面や仕組みを充実して安全で安心できるサービスの提供に日々努めます。

8. 《社会への貢献》

法人として、福祉サービス事業者として社会的義務を果たし、地域貢献活動に力を注ぎます。

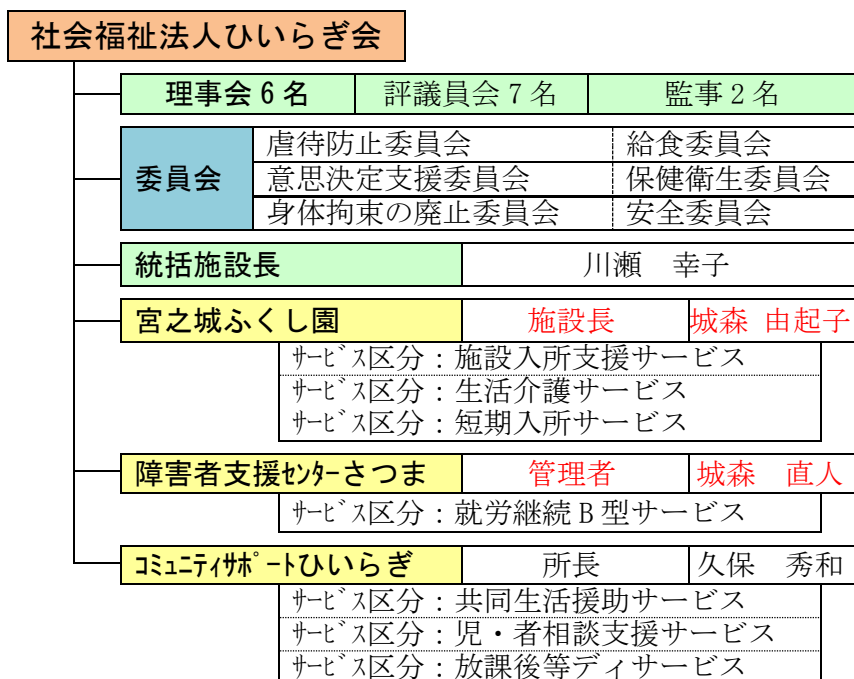
V 重点目標

1. 人材の確保と育成
毎年、着実に新卒の方を採用できるように活動する。また、法人や社会に貢献できる人材の育成に努め、明るい将来を皆さんに提供します。
2. 働き方改革と人事制度の充実
働きやすい職場作りと働き甲斐のある人事制度を時代に即した形で構築する様に努めます。
3. 防災及び住環境整備の改善
利用者一人ひとりが安心して生活できる住環境作りと災害に強い施設作りを推進し、非常時に地域に開かれた福祉避難所を目指します。
4. 感染症を蔓延させない活動の推進
コロナ感染症やインフルエンザなどの感染症クラスター発生ゼロを目指します。
5. 法人及び事業の永続性の確保
中長期目標を掲げ、将来の展望を描きます。また地域貢献、環境保全を含む SDG'sや国が進める社福法人連携推進法人制度など社会が法人に求めるものを研究し対応していきます。

VI 事業計画

- 1-1 福祉関係学生の実習を積極的に受け入れ、且つ就職面談会への積極的な参加を行う。
 - 2 ホームページの内容やパンフレットの充実を図り、魅力を表現する。
 - 3 オンライン研修を全職員参加できるように導入し、進捗や成果を確認できるものとする。
- 2-1 メンタルヘルスの充実の為に研修や相談について専門的な業務委託を行う。
 - 2 有休取得率60%以上、変則勤務の職員の計画3連休取得100%を確保する。
 - 3 上長と面談する仕組みを構築して目標やその評価のできる仕組みを整備する。
 - 4 研修や情報共有にICTの活用、個人のアプリで個人情報取り扱いの禁止
- 3-1 宮之城ふくし園のバリアフリー化を推進する。
 - 2 非常用物資確保、災害応援者登録、非常用設備の点検運用を行い備えを充実する。
 - 3 福祉避難所としての機能点検と災害訓練を実施する。
- 4-1 令和2年度に取り込んだコロナ感染防止対策を継続徹底する。
 - 消毒や検温など感染対策の点検チェックシートによるハード面の維持、罹患者が出た場合の隔離やゾーニングの初動体制などソフト面の持続できる活動を推進する。
 - 2 オゾン発生装置の導入を全事業所に展開する。
- 5-1 With コロナを前提とした中長期計画の見直しをはかる。
 - 2 だいわ跡地の3期工事の延期と内容の再検討を行う。

VII 組織



	法人	宮之城ふくし園	センターさつま	コミュニティサポートひいらぎ
毎月	運営会議(毎月末日) 職員会議 職員研修	給食・保健衛生会議 ケース・担当者会議 安全会議 個別面談	担当者会議 安全会議 個別面談	担当者会議・世話人会議 安全会議 個別面談
隔月		チーフ会議(偶数月)		
4月	辞令交付式 虐待防止委員会			
5月	監事監査 身体拘束廃止委員会			
6月	理事会 評議員会 意思決定支援委員会			
7月		虐待防止委員会		
8月		身体拘束廃止委員会		
9月		意思決定支援委員会		
10月	内部監査 虐待防止委員会			
11月		身体拘束の廃止委員会		
12月	理事会 意思決定支援委員会	保護者連絡会	保護者連絡会	保護者連絡会(ホーム入居者)
1月		虐待防止委員会		
2月				
3月	理事会			保護者連絡会(みらくる)

IX 行事等

毎月の定例行事	特別行事	外部主催の参加行事	
民生員ボランティア受入れ 地域清掃ボランティア 誕生会・茶話会	5月：体験学習旅行 7月：七夕 8月：法人夏祭り 10月：法人秋祭り 11月：体験学習旅行 12月：法人クリスマス会	1月：年始式 1月：25周年を祝う 新年会 2月：節分 3月：ひな祭り交流会 3月：花見	4月：施設親善球技大会参加 5月：県障害者スポーツ大会参加 8月：さつま町夏祭り 9月：職員親善ソフトボール 9月：北薩地区障害者スポーツ大会

X 保健衛生・防災訓練等

	法人	宮之城ふくし園	支援センターさつま	コミュニティサポートひいらぎ
毎月		調理従事者検便 食事介助者検便		
4月		歯科検診	歯科検診	
5月		夜間防災訓練		夜間防災訓練(ホーム)
6月				
7月		風水害防災訓練	風水害防災訓練	風水害防災訓練
8月				
9月		防災訓練	防災訓練	
10月		職員定期検診 利用者定期健診	職員定期検診	職員定期検診
11月		防災訓練 レジオネラ属菌検査	防災訓練	防災訓練(合同)
12月				
1月	調理師業務従事者届出	不審者対応訓練	不審者対応訓練	不審者対応訓練
2月		調理従事者HACCP検査		
3月		心肺蘇生講習会 夜勤職員定期検診	心肺蘇生講習会	心肺蘇生講習会 夜勤職員定期検診

宮之城ふくし園 令和3年度事業計画

I 事業内容

事業名:指定障害者支援施設

- 1.施設入所サービス定員40名
- 2.生活介護サービス定員48名
- 3.短期入所サービス 併設短期入所定員2名と空所型短期入所
- 4.日中一時サービス(さつま町・薩摩川内市・出水市・阿久根市との市町村事業契約)

II 支援の基本方針

1. 利用者の支援に当たっては、社会福祉や医学的・心理的知識の活用によって心身の状況に応じた快適で規律ある生活に親んで頂き、清潔で明るい環境のもと日常生活を営んで頂けるよう努めます。
2. すべての援助は、利用者の障害程度に応じて、その人らしく生活できるよう自立の観点から意思決定支援の充実を図ります。
3. すべての支援は、個別支援プログラムに基づき、利用者の方が日常生活において適切な生活習慣を確立するよう、また、社会生活への適応性を高められるように日常のあらゆる機会を捉えて適切な技術を持って利用者的人格を十分に尊重し、実施するものとします。

III 重点目標

1. 利用者の高齢化や身体機能の低下に伴う誤嚥、転倒、精神不安などのリスクが高くなっていることから、リスクマネジメント及び感染症予防・対策の体制強化から利用者の罹患発症0を目指します。
2. 利用者の特性を理解し適切なサービスを提供するため、強度行動障害支援者養成研修を活用した支援の充実を図り、看護師・栄養士と連携した健康管理、多様な障がいに対応できる専門的知識の習得等、職員のスキルアップを図る取り組みを積極的に行います。
3. 高齢重度化に伴い車椅子利用者が増えてきておりますので職員の腰痛対策を徹底して進めます。
4. 人権擁護の意識を高め、利用者の人権擁護や虐待防止の徹底に努めます。

IV 事業計画

①感染症対策:令和2年度に実施したコロナ対策を徹底して取り組む。

- ・毎日施設内の消毒・換気の継続
- ・発生時に備える備品の備蓄(防護服・マスク・消毒液)
- ・マスク着用・日々の検温管理
- ・初動の適切な実行、有事への対応力。

②高齢化対策:

- ・支援員の介護技術のスキルアップ
- ・居室、トイレのバリアフリー化
- ・職員の負担軽減の為にリフトや移乗支援ツールの導入
- ・小柄な人に相応しいベッドや車いすの提供
- ・咀嚼や嚥下に着目した個別支援の実施、医療系との連携の実施

③重度化対策:

- ・外出や日中活動時に選択できる思決定支援の充実や構造化の推進
- ・強度行動障害支援者養成研修者による支援計画シートの作成と実践

④虐待防止委員会の充実

- ・チェックシートに基づく自己評価と面談による評価内容の解釈の統一を継続活動とする
- ・ICT化による研修や情報共有の徹底

障害者支援センターさつま 令和3年度事業計画

I 事業内容

事業名：指定障害福祉サービス

1. 就労継続支援 B 型サービス定員24名

II 支援の基本方針

自立した社会生活を営む事が出来るよう就労の機会を提供するとともに、生産活動やその他の活動の機会を通じて、社会性や就労に必要な知識、能力の向上の為、必要な訓練を行います。また、利用者の意思、人格を尊重し常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。

III 重点目標

1. 働きやすく楽しい職場作りを実現し、利用者の働く楽しみを創出し事業の安定性を確保します。
2. 利用者の人権や安全面での対策を最優先し、安心して利用できる事業所を目指します。
3. 平均工賃月額についてはコロナ発生以前の実績 14,372 円を上回る様、工賃向上を目指します。
4. 個別支援プログラムの充実と質の高いサービスに努めます。

IV 事業計画

【就労継続支援B型事業】

1. 働きやすさや事業安定性の確保
 - ・土曜稼働日を継続し、工賃向上をはかる
 - ・社会体験やクラブ活動など余暇支援を充実する
 - ・作業のユニット化や楽しい就労の場の提供に努めます。
2. 人権や安全の確保
 - ・人権チェックシートに基づく自己評価と面談による評価内容の解釈の統一を継続活動とする
 - ・ICT化による研修や情報共有の徹底
3. 工賃向上
 - ・農作物の周年栽培の実施
 - ・契約栽培を促進
 - ・イベントなどで販売が出来る様、農産物を使用した商品の開発販売
 - ・収益率改善のための職親先での実習の実施
 - ・委託業務の採算性の評価と採算性改善の活動実施
4. 感染症対策：令和2年度に実施したコロナ対策を徹底して取り組む。
 - ・毎日施設内の消毒・換気の継続、オゾン発生装置の導入
 - ・発生時に備える備品の備蓄(防護服・マスク・消毒液)
 - ・マスク着用・日々の検温管理
 - ・初動の適切な実行、有事への対応力。

【その他】

- ・中長期目標に掲げた通所生活介護の事業の青写真を描く

コミュニティサポートひいらぎ 令和3年度事業計画

I 事業内容

1. 事業名: 共同生活支援事業所さつま 包括型共同生活援助サービス 定員10名
住居:あっとホームかがやき1 定員5名 あっとホームかがやき2 定員5名
2. 事業名:相談支援事業所さつま
①障害者相談支援 ②計画相談支援 ③障害児計画相談支援 ④さつま町基本相談支援事業
3. 事業名:障害児通所支援事業所みらくる
①放課後等ディサービス 定員10名

II 支援の基本方針

- 1 利用者又は利用者の家族等の意思及び人格を尊重し、常に当該利用者等の意思決定や個別支援計画に基づく支援を行います。
- 2 利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように配慮して支援します。
- 2 事業の実施に当っては、地域及び家庭との結び付きを重視し、利用者の関係する市町村、他の指定障害福祉サービス事業者、障害児の通う学校、その他福祉サービス又は保健医療サービスを提供する者との密接な連携に努めます。
- 3 鹿児島県指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例に定める内容のほか関係法令等を遵守し、安心安全な環境の提供と健全な事業を実施します。

III 重点目標

- 1 権利擁護、意思決定支援(意思疎通・意思形成・意思表出・意志実現)や療育等の職員のスキル向上を図ります。
- 2 利用者の年齢や状況に応じた健康管理を十分に行い、感染症の発生防止及び事故等の予防に努め安心安全な環境作り、質の高いサービスの提供を行います。
- 3 事業収入の向上に努め、安定した運営を目指します。
- 4 社会福祉充実残額を活用した施設整備を行い、利用者やその家族及び地域のニーズに応え、信頼される事業所を目指すものとします。

IV 事業計画

- ①職員のスキル向上
 - ・個人参加型の施設外研修や実習の活用
 - ・ICT化によるオンライン研修や情報共有の徹底(機会の少ない世話人さん達の充実)
- ②感染症対策:令和2年度に実施したコロナ対策を徹底して取り組む。
 - ・毎日施設内の消毒・換気の継続
 - ・発生時に備える備品の備蓄(防護服・マスク・消毒液)
 - ・マスク着用・日々の検温管理
 - ・初動の適切な実行、有事への対応力
- ③安定した運営:サービス事業収益の黒字化
 - ・グループホームの定員充足活動の実施(現在実員7名⇒10名)
 - ・放課後等ディサービスの年間利用数の前年比改善
 - ・主任相談員の配置
 - ・新しいサービスや事業の創出(医療連携・地域生活援助等)
- ④施設整備
 - ・新しいみらくるへ6月1日移転の実施
 - ・遊びや運動を中心とした療育設備の整備と活用から成果の評価をできる様にする
 - ・Withコロナ状況での地域貢献や地域生活支援拠点等のできる施設の構想図を描き具現化を図る
- ⑤信頼される事業所
 - ・自立支援協議会など町の福祉活動の中で主体的な参加を行い、町の為に活躍をする
 - ・学校や地域との連携を積極的に図り、情報共有などから利用者の全ステージに貢献する